



地理局ヨリ借用ノ寫
森林監守

第三篇



839



114
A3856



林監守人ノ本務

森林監守人トハ定限ノ区域内ノ土地ヲ保護ス可キ任ヲ受ケケル者ヲ云フ故ニ監守人ハ其所管ノ森林内ニ違犯ノ者ヲカラシムル為メ間断ナク視察スルヲ緊要トス是ヲ以テ余輩此篇ニハホドリアールハルテীগ両氏ノ言ニ倣ヒ森林監守人ノ善良ナル性質ヲ擧ケテ之ヲ識認セシメントス夫レ監守人ハ身体強健且目鋭敏ニシテ勉メテ倦マス品行方正ニシテ信義正実ヲ著トシ従順温和ナルヲ要ス是レ其職務執行ノ際其欠ク可ラサルヲ以テナリ斯ノ如キ性質ハ森林監察ノ為メニ要スルノミニマム人人生ノ家モ貴重スル所ナリ監守人ハ記憶ト深遠ノ謀慮アリテ文書ニ通シ罪犯ノ調書ヲ明記シ教学ノ大旨ト代数学ノ初步トヲ学ヒ且施政ノ概畧方法ト森林学ノ森林ニ関スル理財ノ法

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

トヲ識得スル者ニテ之ヲ概言スルハ森林ニ係ル違犯ニ付キ投
フヘキ諸件ヲ明知スルヲ緊要トス森林監守人ノ本務ヲ説クニ
ヨリ先ツ監守人ヲシテ認得セシムヘキアリ此等ハ法律ニ掲
載セサル事務ニシテ其職務執行ノ際場合ノ止ムヲ得サルニ循
ル處スヘキ事ナリ何トナレハ其監守スヘキ森林ヲ保護スル
ノ方法則チ損害ヲ預防スヘキ方法ハ害ヲ加ントスル者ノ其加
害ノ景情ニ循ヒ施行セザル可カラサルカ故ナリ
森林ノ所得ヲ保全スルハ至難ノ業トス森林ハ常ニ違犯ヲ生ス
ヘキ物件中ノ一ニシテ其損害ヲ預防スルハ唯監察ヲ嚴ニ施行
スルノ一途ナリ故ニ伐木ノ時ト冬季烈寒ノ際ト菓物成熟
ノ時トハ殊ニ注意視察シテ犯罪ヲ預防シ又割断具ヲ以テ樹木
ヲ不具ナラシムル等ノ害ヲ防クノ緊要ナルヘシ

第一 森林監守人ハ其職務上ノ失策並ニ贈与ヲ受ル等ノ事

アレハ相当ノ処罰ヲ受クヘキニ因リ犯人又ハ商人ヨリ金銀
財料或ハ贈物等ヲ受納シ又ハ強奪者樹木ノ類ニ論ナクト飲
夜間採取スル者食ヲ共ニシ又ハ罪犯ノ如何ヲ問ハス犯罪ニ就キ強奪者ノ書
記セル書類又ハ中立書ヲ引裂キ又ハ察棄セシ事等証跡分明
ナレハ当然処罰セラレヘシ

第二 監守人ハ材料ノ高業如何ヲ問ハス之ヲ為ス可カラズ
其家ニ積材場ヲ設ケ材料ヲ積ミ置ク可カラズ伐木ノ入札人
ト為ル可カラズ又商人ノ組合等ニ加入ス可カラズ飲料ニ
賣スル場所ヲ建設ス可カラズ材料ノ如何ヲ問ハス之ヲ使用
スル上業場ニ材料ヲ販賣シ又ハ送付ス可カラズ樹木ヲ伐斫
シ又ハ抜キ取ルヘキ免許ヲ与フルノ権アル可カラズ又小弱
ノ樹木ト虫氏之ヲ伐リ又ハ抜キ取ルヘキ免許ヲ与フルノ権
アル可カラズ親屬姻屬ト虫氏商人ハ保証人ト為ル可カラズ

又其親屬姻屬ヲシテ森林ヲ小作セシメ又ハ森林ヲ評價セシム可カラス

第三 路傍ニアルト他ノ場所ニアルトノ論ナク総テ随意ニ樹木ヲ処置ス可カラス材料商人ヲ待遇シ木履製造所焼炭場及ヒ其他ノ場所ヨリ手数金等ヲ受ルル嚴禁クルヘシ

監守人ハ其監守スル森林内ニ諸犯罪アル時又ハ獸類ノ森林ヲ害シタル時又ハ其他ノ損害ヲ生スル時其旨ヲ公報セサレハ其責免カル可カラサルニ因リ其職務ノ性質ノ細目ト其負擔スル義務トヲ尤ニ細論スルヲ適當トス

第一 森林監守人ハ管轄区域内ノ森林ニ毎日巡行シ其巡行スルニ當テ或ハ通行ノ道ヲ変シ又ハ其歩ヲ緩急シテ其巡行中見聞セシ諸事ヲ見認ムヘシ必ス人跡アル道ヲ行ク可カラスト虫モ林樹ノ蒐集シタル中ヲ過ク可カラス何トナレハ違犯

ノ景状ヲ見認ムルトハ多分人跡ヲキ場所ニアルカ故ナリ

第二 森林監守人ハ少クモ一週日内ニ一回其管轄區ノ境界タル山林ヲ巡行監察シ又森林分界周圍ノ溝渠ヲ視察シ森林ノ側傍ナル土地ノ所有主此分界溝渠ノ景情ヲ変シタル時ハ其變更セシ模様ヲ調書ニ記載スヘシ

第三 森林監守人ハ森林賣拂ノ時ニ臨ミ視察シテ其森林内ノ雜草ヲ伐取ルヲ防キ且賣拂ヲ受ケテ伐斫セシ森林内ニ於テハ殊ニ雜草ヲ刈取スルヲ禁スヘシ何トナレハ伐木又ハ斫テ倒シタル森林内ニハ之ヲ増殖スヘキ基礎タル若木ノ数多アルカ故ナリ

第四 森林監守人ハ若木ノ成立スル地方ニ殊ニ數回巡視シテ獸類ノ害ヲ防キ且犯人ノ器具ヲ製シ又ハ杖ヲ製スル為メ若木ヲ折傷スル者等ヲ制止スヘシ

第五 夜間窺カニ獸類ヲ牽キ來テ牧養セシ者ヲ見認ルト各種
犯人ノ脚跡ヲ証明ニスルトノ目途ヲ以テ早天ヨリ巡視スル
ヲ緊要タル可シ

第六 森林監守人ハ森林側傍ノ所有主他人ノ入額ヲ所得ト為
スノ權アル者及ヒ獸類ヲ牧スル者等樹皮ヲ剥キ又ハ伐木ノ
為メニ經過スル間道ニ入りテ樹木ヲ拔キ去リ又ハ其他ノ害
ヲ制止ス可シ

第七 森林監守人ハ官許狀ヲ得シテ山林内ノ土砂糞土等ヲ
他所ニ搬運スル者ヲ制止ス可シ

第八 森林監守人ハ石炭坑ヲ監察シ預メ定メタル場所ノ外之
ヲ堀ルヲ許サス樹木培養ノ損害トナラサル為メ樹木ヲ栽植
セサル地ヲ撰ミ又木履製造所ヲ建設スルニモ亦同一タル可
シ且製造者違犯ニ因テ材料ヲ得之ヲ使用スルヤ如何ヲ証ス

ル為メ其製造所内ニ入りテ視察スヘシ

第九 森林監守人ハ坵炭工人ヲ視察シテ其馬ヲ杭ニ繫カシメ
又其買得タル部分ニテ飼草ヲ刈取シ獸類ヲ牧スル等ノ事ナ
カラシムルタメ監察シテ之ヲ制止スヘシ

第十 森林監守人ハ他人ノ森林ノ入額ヲ所得ト為スノ權ヲ有
スル者ヲ監察ス可シ是レ其地ノ住民商人又ハ入額所得ノ權
ヲ有セサル者又ハ此權ヲ賣買スル者等ニ此權アルモノヨリ
其姓名ト其住所トヲ貸シ与フルハ惡弊ヲ預防スルカ為メナ
リ

第十一 森林監守人 巡行ノ時森林内ニ於テ牧人又ハ其他點
火スル者アレハ其口実ノ如何ヲ問ハス之ヲ制止ス可シ

第十二 森林監守人ハ若水ヲ抜キ去ル若果物ヲ摘取スル者伐
木シタル部分ニ獸類ヲ牽キ入ルハ此等アレハ之ヲ制止シ又

牝山羊、綿羊ハ其年齡ノ如何ヲ問ハシ又時ノ如何ニ論ナク森林内空間ノ地及ヒ荒地ト雖モ之ヲ牽キ入ル、コトヲ許サ、ルニ因リ注意シテ之ヲ制止ス可シ

第十三 森林監守人 其巡視ノ時倒レタル樹木ヲ見タル時ハ之ニ鑿記ヲ打テ且其目錄ヲ製シテ其地方ノ森林官署ノ吏員ニ出スヘシ

第十四 森林監守人ハ伐木シタル後テ其場所ノ掃除ノ際車夫取者等更ニ森林内ニ道ヲ開キ運車スルヲ制止ス可シ是レ樹根ヲ折傷シ新株スル等ノ恐レナカラシムルカ為ナリ

第十五 森林監守人ハ枯朽シタル樹根ノ高キモノアレハ伐木ノ間ニ之ヲ伐ラシムヘシ

第十六 森林監守人ハ毎日巡視シテ預備ノ森林ヲ監察シ樵夫ノ之ヲ伐ルヲ制止ス可シ

第十七 森林ノ落札人ヨリ伐木ノ免許ヲ工人ニ与フルノ前工人伐木セントスル時ハ森林監守人ノ之ヲ制止シ又工人其工業簿冊ニ伐木スルノ旨ヲ記載スルノ前森林ヲ伐斫セントスル時モ亦森林監守人ノ之ヲ制止ス可シ

第十八 森林監守人ハ其管轄區域内ニテ伐木ノ時毎日其場所ヲ巡視シ伐木ノ方法ヲ熟視シ若シ其方法ノ惡シキ時ハ落札人ヨリ任ラ受ケテ伐木ノ事務ヲ扱フ者ニ其旨ヲ報知シテ工業ヲ停止ス可シ(第二篇字類中「エキス」プロ「アタ」レ「オ」ニ「森林」ニ「養伐木」

第十九 森林監守人 小舎製造所等ノ外ニテ點火スルヲ嚴禁シ若シ工夫此規則ニ違反セシ時ハ監守人其違反ノ所為ヲ調査ニ記シ落札人ヲシテ其責ニ任セシム可シ

第二十 森林監守人ハ伐木ノ間巡行シテ保存ス可キ樹木ト預

備ノ樹木トテ檢視ス可シ

第二十一 伐木ノ終ル可キ時且預定シテ之ヲ羅敷規則書ニ掲クルカ故ニ落札人延期ノ許可ヲ得サルニ若シ工夫ハ時ヲ過キテ尚ホ伐木スル時ハ監守人ノ之ヲ停止ス可シ若シ工夫此規則ニ違犯スル時ハ監守人其樹木ノ取押ヲ為シテ之ヲ公告シ且ツ其旨ヲ調書ニ記ス可シ

第二十二 森林監守人ハ重大ノ違反ヲ見認スル時直ニ地方ノ吏員ニ之ヲ報知シ而シテ吏員ハ速ニ監守人ト協議シテ其犯人ヲ探索ス可シ

第二十三 火災又ハ不慮ノ災害發生シ非常急迫ノ場合ニ於テハ其地ノ森林監守人ハ速ニ其場所ニ到リ且其地方ノ吏員ニ急報シ吏員ノ到着ヲ待ツノ間其景況ニ循テ處分ス可シ火災ノ時ハ延焼ヲ止ムル為メ至急防焼ノ方法ヲ行ヒ延焼甚クシ

カクサル時ハ樹皮ヲ束子又ハ掃把ヲ以テ防焼ヲ為ス可シ

若シ火勢熾ニシテ此方法ヲ以テ延焼ヲ止ムル能ハサル時ハ監守人ノ処分ス可キ要件左ノ如シ

第一 監守人ハ機ニ臨ミ諸方法ヲ以テ近接ノ地ニ火災ヲ報知シ其住民ヲシテ伐木具及ヒ土工ノ具ヲ携帯セシメ火災ニ罹ラントスル場所ニ招集シ樹木ヲ伐ラシメ又ハ薪草ヲ除去セシメ火ノ後部ニハ薪草ヲ掘リテ延焼ノ道ヲ絶チ若シ景況止ムヲ得サル時ハ火ノ前面ニ或ル間隔ヲ措キ溝渠ヲ作ル可シ

第二 水路アル地方ナレハ防燒器ヲ用キテ防燒ス可シ
第三 灌木ノ生茂セル地又ハ乾草ノ地ニ火災ノ發シタル時ハ上ヲ掘リテ火中ニ投シ又ハ延焼ス可キ地ニ水ヲ投シテ灌木又ハ雜草ヲ蓋ヒ火勢ヲ止シ又ハ溝渠ヲ作りテ延焼

ノ道ヲ絶ツ可シ

火災鎮消ノ後チハ監守人ハ其地所ノ周圍ヲ巡視シ之ヲ監察ス可シ且燒失セシ草木ノ價直ト火災ヲ罹リタル地ノ面部ト火災ノ原由又ハ原由確實ナラサレハ其思度スル所ノ原由トシテ調書ニ記ズ可シ

森林監守人ノ本務ノ大槩ト其監察制止スヘキ諸件トハ前文既ニ記載シテ之ヲ示スト虫モ尚ト掲載スヘキ要件アリ山林ノ樹木ハ竊取ニ罹リ折傷ヲ受ケ又ハ其他ノ害ノ多キニ因リ之ヲ見認メ之ヲ防クノ方法ヲ監守人ニ知ラシムルコトハ緊要ニシテ欠ク可カラサル所ナリ森林ノ害ハ第一人為ノ害第二禽獸ノ害第三昆蟲ノ害トス

人為ノ害ハ必ス森林ニ直チニ害ヲ加フルモノニテ其地ヲ害シ併セテ其生産ヲ害スルニ至ル第一森林ノ境畧タル標柱溝渠

及コ伐木境界ノ樹木等ヲ動カシ又ハ之ヲ廢棄スルノ害第二許可ヲ得スレテ森林ノ生産物ヲ獲取シ糞土雜草苔木葉木刺灌木野薔薇等ヲ持テ去ルノ害第三樺樹ノ小枝薪料糧實栗果等ヲ詐テ持テ去ルノ害等是ナリ

家畜ニ因テ生スル害ハ監察ヲ嚴ニシテ之レヲ預防スルヲ得ヘノ且森林ニ関スル法律ノ實施ニ因テ土地ヲ保護シ害ヲ預防スルノ助ケトナレリ

野ニ生スル動物モ亦森林ニ害アリ乳獸ノ類鳥類及コ數多ノ昆虫是レナリ

第一森林ヲ害スル獸類五ノ如シ

第一鹿第二小鹿第三シコウガルイ_{鹿ノ一種}第四野猪第五兔第六

野鼠土龍_{シコルミ}_{鼠ノ一種}第七栗鼠

此數類ハ森林ヲ害スルコト甚シ或ハ若芽枝葉及ヒ樹皮ヲ食ス

ルニノアリ或ハ地ヲ搔キ種子ヲ食スルモノナリ
根ヲ食スルモノナリ

第二森林ヲ害スル鳥類左ノ如シ

松鷄、樹鷄、野鳩、雉、鶯、鴨子等ナリ

此等ノ鳥類ハ総テ撒布シタル種子ヲ奪子テ之ヲ食シ花苞ヲ
啄キ以弱ノ幹ヲ害スルモノナリ

第三昆虫ニシテ亦無限ノ害ヲ与スルヲアリ是レ其蔓延殊ニ甚

シク或ハ五木ヲ蠹蝕シ又ハ伐リタル樹木ヲ蠹蝕シ或ハ果物ヲ

食シ又木葉ノ液ヲ吸収シ木葉ヲ食フ此昆虫ノ中ニテ甲虫ノ類

トハ翼虫ノ類ト四翼虫ノ類トハ各別個ニ生シ鱗翼虫ノ類ハ最

初螟蛉ノ状ヲ為ス時集合シテ森林ヲ害ス若シ急ニ之ヲ除去セ

サルハ其害甚ク大ナリ

森林ヲ害ス可キ数々ノ植物アリ其繁殖大ナル時ハ弥ヨ其害甚

シ(第一編「ルパウパル」シ樹木ヲ繁殖ノ註釋中森林有害ノ樹木

ヲ参考スヘシ)

人ノ所為ニ因テ生シタル損害

伐木ノ際ニ生スル悪弊ト各種樹木ノ竊取トヲ防ク為メ森林監

守人ハ其巡視ヲ嚴ニシ森林警察規則ヲ能ク遵守シテ適宜ニ之

ヲ施行スルヲ要ス且監守人ハ伐木落札人ノ違犯ニ付キ責任

シ伐木境界ヨリ二百五十メートルノ距離内ニ違犯アル時ハ其

責ヲ免ル可カラス

森林ニ害ヲ加フル禽獸

家畜

森林監守人ハ家畜ノ害ニ付テモ亦其所有主ノ違反タルヲ証シ

之ヲ調書ニ記スル為メ數回巡行スルヲ要スル巡行教訓ナリ

心ス此害ヲ預防ス可シ既ニ害生シタル後テ罰ヲ加フルナリ

未前ニ之ヲ預防スルヲ緊要ナルカ故ナリ

野獸

野獸ノ害ヲ預防スルニハ境界ヲ設ケテ遠隔ノ地方ニ之ヲ避クルヲ要ス此境界ヲ設ケルニハ繩ヲ張り之ニ光澤アル者ヲ結ヒテ繩圍ヲ為シ果生木及ヒ若木ヲ防護スベシ然レハ兎ノ類ノ如キハ之ヲ獲取シテ害ヲ絶ツヲ要ス若シ粟藁ノ非常ニ増殖レタル時ハ勉メテ之ヲ狩リ其得ル粟藁ヲ以テ餌ト為シ之レヲ狩ルヘシ

野黨又ハ其他ノ鼠類ノ害ヲ預防スルニ數多ノ方法アリ第一狐狸、豹、狼等ノ如キ鼠類ヲ食フヘキ性質ノ獸類ヲ繁殖シ獵犬ヲ増殖スルニアリ又鳥類ニテ鼠類ノ數多ヲ殺シ之ヲ食フモノアリ第二鼠害ヲ受クヘキ森林内ニハ豕ヲ牽キ入ル、ヲ良トス此獸ハ野黨及ヒ其他ノ鼠類ヲ尋テ其巢窟ニ至ルマテ之ヲ求メテ

食フモノナリ

鳥類

鳥類ノ森林ヲ害スルモノハ其數ノ非常ニ増殖スルニ非ザレハ憂ナルニ足ラスト虫ニ其増殖スルニ至レハ樹木ノ種子ヲ求メテ之ヲ食ヒ殊ニ播種ノ際ニ此害多クシテ許多ノ損失ヲ生スヘシ時トシテ嫩芽ヲ喰ヒ又ハ若木ノ幹ヲ喰ヒ生活スル鳥類アリ此損害ヲ預防スルノ方法ハ境界ヲ定メテ其境外ニ増殖スルヲ防キ且森林内此害ノ害モ甚タレキ場所ヲ預防シ又勉メテ此害ヲ預防スルニ便ナル地方ヲ保護シ他ノ場所ニ移ス可シ

昆虫

昆虫モ亦森林ニ甚タ害アリ若シ其繁殖ヲ防カザレバ常ニ葉

以テ七倍

ヲ預防スル昆虫ノ害ハ全一トラス或ハ幹枝ヲ食シ葉果ヲ喰
フ故ニ急ニ其蔓延ヲ防キ其根原ヲ絶タシレバ無害ノ害ハ
ルヘシ

甲蟲ノ類

第一「ハンヌト」此虫ハ四月五月ノ間ニ生シ椋樹山毛榉榆樹
等ノ葉花ヲ喰其孵生シタル時ハ白虫ト名ケ或ハ「マシ」ナニル
ト称ス此昆虫ハ樹根ヲ喰ヒ遂ニ枯落セシムルニ至ル此害ヲ除
クニハ朝樹木ヲ揺動シ其落下シタル片之ヲ殺シ又ハ之ヲ燒尽
スヘシ若シ其蔓延甚タシキ時ハ小許ノ給料ヲ出シテ婦人小兒
又ハ人夫ヲ招集シテ虫ヲ殺サシメ此中ノ暇モ精勵ナル者ニハ
以シク褒賞ヲ附与シテ之ヲ奮勵セシメハ此大數ヲ拂フニ至ル
ヘシ又虫ノ孵生シタル時ハ地ニ畝行スルニ因テ飼養スル鳥類
ヲ森林ヲ放チ又ハ豕ヲ森林内ニ牽キ入レテ虫類ヲ喰ハシム可

第二「ハンヌト」フウロン^{昆虫類}此虫ハ海濱及沿海ノ砂地ニ

生スルコト多シ七月ヲ以テ發生シ菩提樹白楊榿樹ノ葉ヲ喰ヒ之
ヲ害スルコト甚シトス之レヲ除クニハ前文ノ方法ヲ以テス可シ

第三「ホストリ」シユ、テイボグラ^{昆虫類}此虫ハ長サ五「ミリメ
ートル」アリ其色褐ニシテ羽アリ甲ヲ為ス數條ノ線アリ其端ハ

各種ノ樹木ヲ害シ殊ニ松杉ノ類ヲ害スルコト甚シ木皮ノ間ヲ食
ヒ無數ノ空隙ヲ為シ養樹液ノ循環ヲ妨害ス此昆虫ハ好テ病木

又ハ衰弱顛倒セル樹木ニ附着シ又時トシテ健強ノ樹木
害ヲ受ケ數年間ニ其全部枯落スルニ至ルコトアルヘシ
「テイボグラ」ノ害ヲ避ケンニハ季候ノ如何ヲ司ハ「速ニ病
木又ハ衰弱顛倒セル樹木ヲ除去シ又之ヲ除去ス

五氏ノ皮

ヲ剥去レ、レ此害ニ罹リタル樹木ハ、（注）乾燥シテ、（注）玉
スルヲ以テ知ルヘシ然ルハ直チニ之レヲ伐斫シテ、（注）断株ヲ壊
スルヲ要ス

此害ヲ防ク為メ樹皮ヲ剥キタル部分ニ石灰水ニ塗リ、（注）其朽敗
ヲ止ムルヲアリ

此昆虫ヲ喰フヘキ鳥獸ヲ増殖スルハ緊要ナリ此鳥獸ハ野菴、（注）
木馬、啄蜂鳥、及ヒ燕雀ノ類ナリ

第四 「ホストリ」ニエ、（注）パシシルウユストル野松ヲ害ス此昆
虫ハ長サ十「ミリ」メートル乃至十二「ミリ」メートルアリ其色褐ニ

シ、（注）甲アリ其腹部ハ赤シ前文ノ昆虫ノ如ク野松ノ健強ナルト
枯落セルトヲ問ハ、害ヲ加ヘ殊ニ老木ニ甚シ

此害ヲ防セグニモ亦前文ニ掲ケタル方法ヲ行フヲ緊要ナル可
シ

第五 「スエリ」ト、（注）「ペルト」（注）昆虫ハ其長サ四「ミリ」メートルニ

テ其色黒ク細毛アリ甲ニ凸凹アリテ鬚ヲ具シ其足赤色ナリ四
十年ヨリ七十年ヲ経タル老木ノ脂質アルモノ、皮ニ附着シテ

其害甚シ又野松ノ嫩芽ヲ喰ヒ柔軟ナル葉ヲ擇ヒ其喰抜キタル
穴ニ卵ヲ遺シ直チニ孵化シ若芽ヲ喰ヒ之ヲ枯落セシムルニ至

ル可シ
此害ヲ預防スルニハ前文ニ掲ケタル「イボク」（注）ノ預防法

ト同一ノ方法ヲ行フヘシ
第六 「スコリ」ト、（注）「デストリ」ユク、（注）「ユル」（注）昆虫ハ其色黒ク光輝アリ

斑点ト鬚トヲ具シ甲ニリ其足黒シ此昆虫ハ榆樹ヲ害ス、（注）甚
タシク殊ニ生長シタルモノニ害多シトス

第七 「ホストリ」ニエ、（注）「ス」（注）昆虫ハ其長サ三「ミリ」メ
ートルニテ其色黒ク其甲ハ齒ノ形（注）為シ、（注）樹ノ皮ニ附着ス

茅ハ ホストリレニ、サハル松樹ヲ害ス此虫 大ナリ

一トルニシテ其色黒ク其形ハ切斷状ヲ為シ全身中アリ樹木

蝨如何、ハス殊ニ松杉ノ皮間ニ生ス

此害ヲ預防スルノ方法モ又前文ト同一ナルヘシ

茅九 斑猫此虫ハ長サ十五「ミリメートル」ニテ光輝ヲ帯ヒ其色

青ク鬚黒シ此昆虫ハ殊ニ桑ノ樹ノ花ヲ害ス此害ニ罹リタルハ

ハ樹木ヲ搖動シ其落下スルヲ以テ之ヲ拾集シ之ヲ酸ニ浸シ而

シテ葉舗ニ販賣スヘシ

茅十 我佛回ノ森林ヲ害スル穀虫ノ類數多アリ茅一ハ「ラシシ

ロ」又、テ、パンル松樹ヲ害スニテ其色黒ク長サ七「ミリメートル」

リ羽ニ筋ト斑點トアリテ其状恰モ「スコリート」ビニ「ムルト」ノ如

シ其孵生シタルモノハ野松及ヒ松樹ノ柔軟ナル枝ニ附着シ嫩

芽ヲ枯落セシム此害ヲ預防スルニハ其附着スル樹木ヲ搖動シ

樹下ニ麻布ヲ敷キ之ヲ集メ之ヲ殺スヘシ茅二ハ「ラシシ」ユト又、

ド、ロト又、赤楊ノ類ヲ害スニテ楊柳、樺樹ノ葉ヲ喰フ茅三ハ「ラシシ

ユ」又、ゲニ、ワル水楊ヲ害スニテ榿樹水楊ノ葉ニ害ヲ加フル

モノナリ

茅十一 「クリゾノ」ル昆虫ノ類ニテ森林ヲ害スルモノ數種ア

リ茅一ハ「クリゾノ」ル、ゲニ、プウ「エ」ル白楊ヲ害スニテ其長サ

十三「ミリメートル」アリ其状楕圓ニシテ其色青ク其目赤クシテ

黒斑アリ羽形直角ナリ此昆虫ノ孵生シタル時ハ群集シテ白粉

水楊等ノ葉ヲ喰フ茅二ハ「クリゾノ」ル、ウイ「オ」レツトニテ之レ

モ亦楊柳ノ葉ヲ害ス三ハ「ゲ」リ「ア」ウ「リ」、ソイ「エ」ウ「ル」此虫

ハ亦前文ト同一ノ樹木ヲ害ス茅四ハ「ゲ」リ「ブ」ウ「リ」、ゲニ、クウ「ド

リ」ニテ此虫モ亦前文ト各種ノ樹木ノ嫩芽ヲ害ス茅五ハ「ゲ

リ」ユ「ク」ド「ロ」ル「ハ」スル樹ヲ害スハ「ゲ」リ「メ」ト「ル」長サ

全ク

ナルテリ又青色ナルヨリ頭部三個黒斑ハ中ニ一
線ノリ此昆虫繁殖スルハ榊樹ノ柔軟ナル葉ヲ喰ヒ遂ニ枯
レシムルに至ルヘシ

右ノ如キ有害ノ昆虫ニ總テ手ニテ之ヲ除去スルヘシ手
レルハハ必ス落下シ又ハ免レントシテ死スルモノアリ

二甲虫

此昆虫ノ類ニテ若木ノ根ヲ截リ養樹園ヲ荒ラシ其害ノ甚タル
キモノアリ「クウルクチリエール」名虫是ナリ

此害ヲ預防スル為メ狹隘ノ溝ヲ堀リテ肥料ヲ滿タスルハ昆虫
過半ハ茲ニ集マリ其後肥料ヲ散シテ之ヲ滅尽スヘシ

半甲虫

森林ノ大木ヲ害スル「エミグテール」ハ多ク「アフイヂアン」長又ハ
「アユースロン」虫ノ類ニ爲ス此昆虫ハ「アビ」エ、チユ、レエリ

又「榊樹」ニ附 第二「ブレ」エ、ド、ローヌ「附」スル樹ニ 第三「ブレ」エ、チ
エ、ビ、エ、イ「スル」黄揚ニ附 著 第四「ブレ」エ、チ、ガ、パ「スル」松樹ニ附 著

テ其繁殖スルハ松杉ノ嫩芽ヲ喰ヒ其害甚クシ第五「ヒユ」ス
ロ「デ」ユ、シ「エ」ス「榊樹」ニ附 著 是テ其色褐ナリ口部ハ体ヨリ長

キ「三」倍ナリ第六「ブレ」エ、チ、ヘ「トル」山毛榉ニ附 著 此
虫ハ白色ノ綿毛ニテ全身ヲ蓋ヘリ第七「ブレ」エ、ド、ローヌ「ハ」榊樹
ニ附 著

著スル 第八「ブレ」エ、チ、ロ「スル」桐樹ニ附 著 第九「ブレ」エ、チ
ユ、ト「ラン」ブル「スル」楊ニ附 著 第一「ブレ」エ、チ、レ「ウ」著榊樹ニ
附 著

虫等「テ」リ此等ノ昆虫ハ總テ養樹液ヲ以テ生育シ枝葉幹根ニ附
著ス又ハ幹ト葉トノ間ニアリテ増殖甚ク速ニシテ其害甚

大ナリ
斯ノ如キ被害相合シテ幸ニ其害ノ原由ヲ滅スルモノアリ第一

鳥類未テ多量ノ昆虫ヲ喰ヒ第二雨降り露高リテ昆虫

二一程ノ昆虫ノ他ノ昆虫ヲ喰ニ其増殖ヲ妨害スルアリ
四甲虫

数多ノ四甲虫ノ中ニテ森林ニ害ヲ及ボト甚シキモノハ二三種
ノ蠅ニシテ其針ヲ以テ木葉ニ穴ヲ穿テ卵ヲ生シ其蟬生カレハ
ハ其各個ナルト其集合スルトラ尚ハス樹木ニ害アリ殊ニ害
甚タシキモノハ「タントレ」ハ、デユ、パン松杉樹ニ付
黒ク十三「ミリメートル」乃至十五「ミリメートル」アリ腹部ニ細毛
ヲ具フ此昆虫ハ松杉樹ノ森林ニ甚ク害アリ其繁殖モ亦甚ク速
カナリ
蟻モ亦森林ヲ害スルモノナリ殊ニ脂質ノ樹木ニ甚シ此害ヲ預
防スルニハ其巢ヲ顛倒スルヲ以テ足レリトス可シ

鱗甲蟲

レビド「ラール」或ハ蝶類ハ森林ヲ害スルノ最モ甚シキモノ

ナリ第一ハ其繁殖甚ク速キニ因リ第二ハ其生長ノ速カナルニ
因リ第三ハ蟬生シタルヤ直チニ其喰スルト多量ナルニ因リ
此虫ノ蟬生シタル時ノ形状ハ蝨蛉ノ名称ヲ以テ一般ノ知ル所
ナリ樹葉及ヒ嫩芽ヲ喰ヒテ生育ス又樹木ノ花果根皮ヲ喰フモ
ノアリ此昆虫ノ中ニ各分離シテ生スルモノト集合シテ生スル
モノトアリ此虫ノ窟モ甚クシキモノハ「フアレ」ハ樹木ヲ害スル
出ル長及ヒ「ゴツシユ、ロシデユ、ボア」トス「ゴツシユ、ロシデユ、ボア」
ハ其長サ大概三十五「ミリメートル」アリ其色黄褐色ニシテ上部
ノ數羽ニ黒線アリ春氣ヲ以テ生スル所ノ蝨蛉ハ其形大ニシ
其色ハ赤ク斗ニ赤クアリ白楊水楊ノ内部ニ入りト葉ニ殊ニ
榆樹ノ森林ニ夥クナリトス
「レビド」數種アリ第一其中ニ數多集合シテ樹木ニ害ヲ加
ルモノヲ示スヘシ此虫ハ黄褐色ニシテ其羽毛亦同色ニシテ

毛ノ上部ニ黒キ二線アリ茅三ノ羽毛ハ其中部黒色ナリ一蟬蛉
ハ其色紫色ニシテ体ニ細毛アリ其脊部ハ黒色ニテ黄色ノ数
アリ檜樹ニ集合ス茅ニ「ボンボス」グラト「パオン」ハ我佛國ニ生ス
ル蟬類ニテ其羽ヲ白ニシテ其幅ハ三「センチ」メートルトシテ其体
モ其羽モ等シク茶褐色ニシテ各羽ニ斑点アリ又其蟬蛉モ青色
ニテ体ニ数多ノ凸出セシメテ各種樹木ノ葉ヲ喰ヒ生育ス茅
三「ボンボス」デユ、パン「ル」オカ、指「ビ」ゴ、ハ松杉ノ類ノ刺葉ヲ喰フア
ルパントユス^コ速カナル^非常ニ^ル名ヲ以テ一般知ル所ノ蟬蛉中ホ
種ノ「フアレーヌ」ヲ生シ害ノ甚タレキモノハ茅一桐樹ヲ害スル
「フアレーヌ」ニシテ其羽ニ茶褐色ノ二線アリ其体モ褐色ナリ茅
二ハ梓樹ヲ害スル「フアレーヌ」ニシテ此樹ノ葉ヲ喰フ茅三ハ
ヲ害スル「フアレーヌ」ニシテ松樹ノ刺葉ヲ以テ其喰用トス
「ノ」ク「ト」ー「エ」ル^夜間樹^中出^ルノ中我佛國ニ生シテ樹木ニ害ヲ加フ

ル者ハ第一茶皮樹白栲樹ヲ食ヒ生活スル昆虫第二檜樹ニ葉ヲ
作リ其樹ニ依テ生活スル昆虫第三「イブ」ク^虫第四松杉ヲ害スル
昆虫寺ナリ松杉ヲ害スル昆虫ト「イブ」ウト^葉五月ノ頃ニシテ
野松ノ森林ヲ害スル「殊」ニ甚シ
「ビ」ラル、ウエル、「ア」バン「ト」ハ前文ニ揚ル数種類ノ最モ大ナルモ
ノニテ其上部ノ羽ハ青色ニシテ柔軟ナリ白色ノ二線アリ此虫
類ノ害ハ「ア」フ「ヌ」^樹及ヒ^堅樹^ニ甚シ
前文ニ列記スル昆虫ノ外^ハノ頃ニ出テ、樹木ヲ害スル蟬類
ノ数種アリ中ニ就テ爰ニ記載ス可キハ松^ノ蟬^{ナリ}此虫ハ七月ヲ
以テ生シ我佛國ノ北^部ニテ更モニ蘇格蘭種^ノ松樹ヲ害ス
此昆虫ノ数多^ク樹^ニ害ヲ加ヘ其木若木ノ別ナク枯落セシム
此昆虫ハ先ツ樹^ノ衰^疲ヲ其生長ヲ害スヘキヲ以テ成
可ク速カニ之ヲ除去スルヲ要スヘシ之ヲ除去セシニ

森林ヲ害セサルノ方法ヲ以テ、可シ毎歳春氣ヲ以テ殊ニ之ヲ
相察シ又暑氣ノ後ハ殊ニ其増殖スル甚レキヲ以テ之ヲ視察ス
ルノ緊要ナル可シ。樹木ノ倒レタル所ハ直チニ森
林外ニ之ヲ搬運シテ水及テ剥キ昆虫ノ害ヲ受ケタル部々伐
リ去ルヲ要ス春秋ノ雨氣ニ於テハ森林内ニ豕ヲ牽キ入レ之ヲ
喰ハシメ又ハ蛹ノ多量松材ノ落葉内ニ潜蔵スル時ハ落葉ヲ取
除テ之ヲ燒キ消毒ヲ刈リ其卵ヲ盡シ再生セサラシムル為メ樹
下ノ地ヲ耕鋤ヲ可シ若レ昆虫ノ増殖非常ナレハ此方法ヲ以テ
足レリトセス小許ノ給料ヲ出シテ其地側傍ノ住民ヲ集メ此卵
ト生長シタルトテ問ハス総テ之ヲ滅尽セシメ又此昆虫ヲ探尋
セシメ其多量ヲ殺シタルモノニハ褒賞ヲ附与スルヲ良法
ス
大氣ノ變動ニ因テ此害ノ免カル、一屢アテ濕氣及ヒ寒氣ノ時

ト降霜ノ甚タシキ時ハ昆虫ノ死スルト甚タ多ク大風ノ時ハ
樹下ニ之ヲ吹落スニ因リ獸類ヲシテ之ヲ喰ハシムルニ便ラ
ム
余ノ森林監守人ニ告示スルノ條款ヲ爰ニ了終スルニ臨テ尚ホ
森林監守人ニ説示スヘキモノハ其視察ノ際ニ於テ前文ノ諸件
ヲ実施スル為メ此篇ヲ熟讀シテ其實益ヲ得ルニアリ然レモ前
文ニ論説スル所ハ森林監守人ノ本務ト其性質トヲ揭クルモノ
ニテ行政ニ関スルノ告知ニハ非サルヘシ此告知ヲ実行シテ其
成果ヲ得ンニハ法律ニ於テ監守人ノ義務トスル処ヲ更ニ告
セサルヘカラス然レド一箇ノ條款中ニ森林ノ違警罪ト其實証
ノ方法ト其罰則トヲ載スルニ森林法ヲ就テ行政上ノ義務ヲ識
得スルノ繁ヲ省ク為メニ現時ニ至ルニテ余ノ學ニ得タル方
法ヲ次ニ論セントス其方法ハ森林監守人ヲシテ明亮精細ニ識

得セシムルヲ緊要ナル條件ノミヲ舉ケテ之レヲ識認セシメン
トスルニアリ故ニ後文ニハ千八百二十七年七月三十日公告ノ
森林法ヨリ數條ヲ抜テ之ヲ記載シ且其諸罰則ヲ掲ケントス

